

## 生体に調和した咬合の与えかた

東京都技工士会  
榊原デンタルラボ  
榊原 功二 先生

咬合の概念には、矯正の咬合や補綴の咬合および、義歯、インプラントの咬合といった区別はなく咀嚼機関の役割とは何か、咬合構築の上下顎関係はアングル1級咬合の獲得を目指し前歯部は下顎運動に調和したガイダンス、臼歯部は、咬頭嵌合時の下顎位維持のためのコンタクトの位置を確立する事が重要です。

また前歯部、臼歯部を含めた全歯列の咬合誘導路は天然歯列のもつ歯の順次性を再現し咬合様式の基本としてのミューチュアリー・プロテクション（相互保護）を構築することです。

栄養摂取のための道具、情動性攻撃行動発現の武器として使われてきた咀嚼器官は人においても情動行動発現の器官としても使用され、情動ストレス発現方法として上下顎の歯の噛みしめやこすり合わせなどの生理機能によってストレスを発散させていると考えられる。

この器官の重要なフラキシズムをスムーズに行うための歯の形態を目標にし、さらに歯科審美的にも顎口腔系との調和を図り補綴装置を制作するのが歯科技工士の本来の仕事であります。

今回はこれらのことを盛り込みながら、患者固有のガイダンスや咬合面形態の制作の考え方と臨床テクニックを提示し、ディスカッションしたいと思います。

## 略歴

名 前 榊原 功二 先生

- 1949年 昭和24年 榊原 功二 先生 誕生
- 1968年 昭和43年 愛歯技工専門学校卒業  
同 技工専門学校助手として5年間勤務
- 1974年 昭和49年 東京都日本橋 矢沢歯科医院入社  
(元日本顎咬合学会会長、矢沢 一浩 先生)
- 1986年 昭和61年 同 退社
- 1986年 昭和61年 東京都目黒区にて開業
- 1994年 平成 6年 オーストリア、ウィーン大学留学 (短期)
- 1997年 平成 9年 ウィーン大学公認指導技工士
- 2001年 平成13年 日本歯科技工士会認定講師
- 2007年 平成19年 国際先進学際歯科学会・アジア部会副会長
- 2009年 平成21年 日本顎咬合学会編集委
- 2012年 平成24年 日本顎咬合学会理事

現在に至る